

鈴木 定省  
SUZUKI Sadami

■ 専門分野

経営システム科学分野・経営工学、オペレーションズマネジメント、生産管理、  
サプライチェーンマネジメント、顧客価値創造、消費者行動分析

■ 指導可能な研究テーマ

主としてオペレーションズマネジメント、サプライチェーンマネジメント、顧客満足度、  
顧客価値創造、消費者行動分析などに関する研究を対象としますが、研究対象そのものを  
限定するものではありません。

研究テーマ自体はそれぞれで設定していただきますので、近年の指導事例としては

- ・ サプライチェーンマネジメントおよびロジスティクス
- ・ 需要予測、在庫管理、生産計画
- ・ サービスマネジメントおよびサービス品質
- ・ 顧客満足度およびロイヤルティ形成メカニズムの解明
- ・ 消費者行動
- ・ サステナビリティおよび ESG
- ・ SNS およびオンラインコミュニティ

など多岐にわたります。

研究手法としては、アンケート調査を用いた統計的実証研究、シミュレーション、  
数理モデル分析などを歓迎します。

■ 過去に指導した学生の修士論文題目

【横浜国立大学における修士論文題目】

- ・ The Influential Factors of Customers' Continuance Use Intention of Mobile Food Ordering Apps: A Cross National Comparison between Japan and China

【YBS における特定課題研究題目】

- ・ B2B SaaS 事業における顧客満足度に関する研究
- ・ 製造業における新技術導入に対する従業員の心理的抵抗に関する研究
- ・ 自動車産業政策と OEM の競争優位に関する考察
- ・ 治験薬製造受託機関における在庫管理の改善に関する一考察
- ・ 地方旅館における泊食分離による生産性向上

【東京工業大学における主要な修士論文題目】

- ・ サプライチェーンリスクにおけるレジリエンシー強化に関する研究
- ・ SCMにおける組織内認識ギャップがもたらす影響に関する研究
- ・ 在庫情報の精度がサプライチェーン性能に与える影響
- ・ モジュール化を伴う生産システムにおけるバラツキの伝播と滞留在庫
- ・ 企業における従業員満足度と経営成果の関連性に関する研究
- ・ 雇用形態と労働環境を考慮した労働生産性に関する研究
- ・ 製品・サービスに対する愛着が顧客満足度-ロイヤルティ構造に与える影響
- ・ 後悔およびその対処法が顧客ロイヤルティ構造に与える影響に関する研究
- ・ うらやましが顧客ロイヤルティ構造に及ぼす影響に関する研究
- ・ 他者への意識と SNS の利用状況が Z 世代の購買意欲に与える影響
- ・ 通信販売事業者のフルフィルメント性能を考慮した消費者購買プロセスに関する研究
- ・ オンラインショッピングにおける自己都合返品と再購買意図との関連性

■ 修士論文作成のための必読文献リスト

- ・ Goldratt, E. M. (1984) “The Goal”, North River Pres
- ・ Hopp, W.J. (2011) “Supply Chain Science” , Waveland Pr Inc.
- ・ Cachon, G. and Terwiesch, C. (2018) “Matching Supply with Demand: An Introduction to Operations Management” , McGraw Hill

■ 修士論文作成に向けた履修推奨科目

- ・ サプライチェーンマネジメント関連科目
- ・ オペレーションズ・マネジメント関連科目
- ・ 経営情報システム関連科目
- ・ 統計解析およびデータ分析関連科目
- ・ 研究方法論関連科目
- ・ 経営科学関連科目

■ 博士課程後期での研究指導実績

【過去に指導した学生の博士論文題目（学位取得年月）】

- ・ A B2B Perspective on the Effect of Strategic Orientation on New Product Development Performance: The Role of Contextual Factors (2016.3)
- ・ 経営工学手法の活用とその推進に関する研究(2016.3)
- ・ A Comparative Study on SCM Orientations and Capabilities of Value Networks Through Strategic

Filters: A Case of Sri Lankan Apparel Industry (2015.3)

- The Effect of Workload in Work-sharing Environment under DLB Policy (2015.3)
- Cross National Comparative Study on Operational Performances and Their Influential Factors between Japan and China (2014.9)
- New Product Development Operational Performance Measurement and Its Influential Factors: Analysis of the Impact on Financial Performance in Japanese Manufacturing Firms (2010.3.)

## ■ その他

研究とは、単に既存の知識や研究成果を整理するだけではなく、「なぜだろう？」「本当にそうなのだろうか？」といった疑問を出発点として、新たな知見や示唆を生み出していく活動だと考えています。

そのため、研究テーマはまず皆さん自身の興味や関心、問題意識から探していきます。身近な出来事や日常生活の中で感じた違和感、企業や社会が抱える課題、あるいは技術や社会環境の変化などに目を向けながら、「何が起きているのか」「誰が困っているのか」「なぜそのような問題が生じているのか」を一緒に考えていきます。

研究テーマが定まった後は、その問題についてこれまでどのような研究が行われてきたのか、どのような理論や考え方が提案されているのかを文献調査を通じて整理していきます。その過程で、既存研究では十分に説明されていないことや、まだ解明されていない課題（Research Gap）を見つけ出し、自身の研究の意義や位置づけを明確にしていきます。

私はよく「研究とは『？』を『！』に変える活動」と学生に伝えています。自ら抱いた疑問に対して、客観的なデータや理論的な根拠をもとに検証を行い、その結果として新しい発見や気づきを得ることが研究の醍醐味だと考えています。そして、その成果を学術的な貢献（What's New?）や実務的な示唆（So What?）として社会へ発信することが研究の重要な役割です。

研究指導においては、テーマ設定から先行研究レビュー、研究設計、データ収集、分析、論文執筆までを一貫してサポートします。また、希望に応じて学会発表や論文投稿に挑戦することも可能です。

修士論文を完成させることはもちろん大切ですが、それ以上に、自ら問いを立て、自ら調べ、自ら考え、根拠に基づいて論理的に主張できる力、問題解決力を身につけることを重視しています。

修士課程での研究活動を通じて、研究者としてだけでなく、企業や社会で活躍する高度専門職業人としても役立つ問題解決能力や思考力を養っていただきたいと思います。